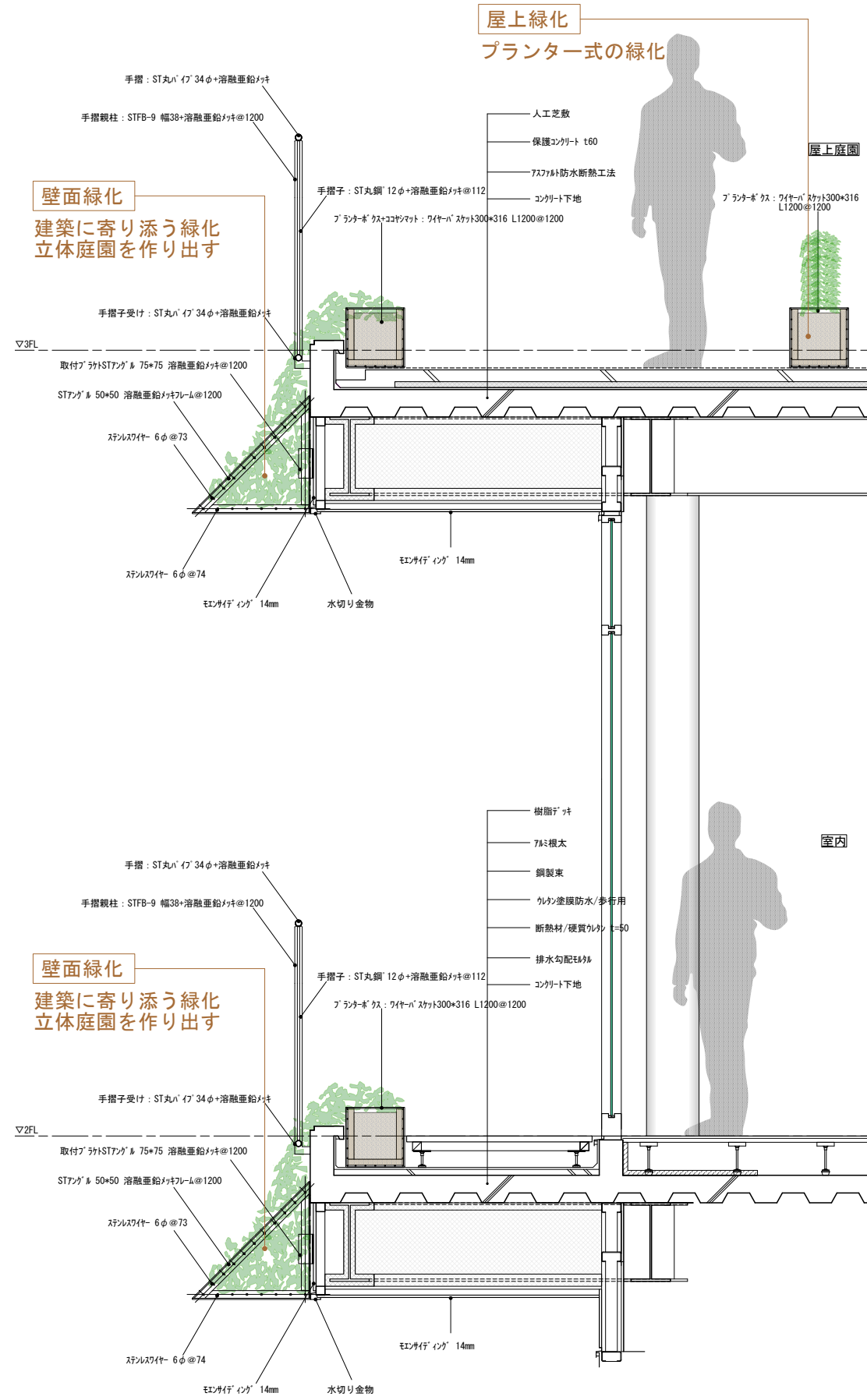
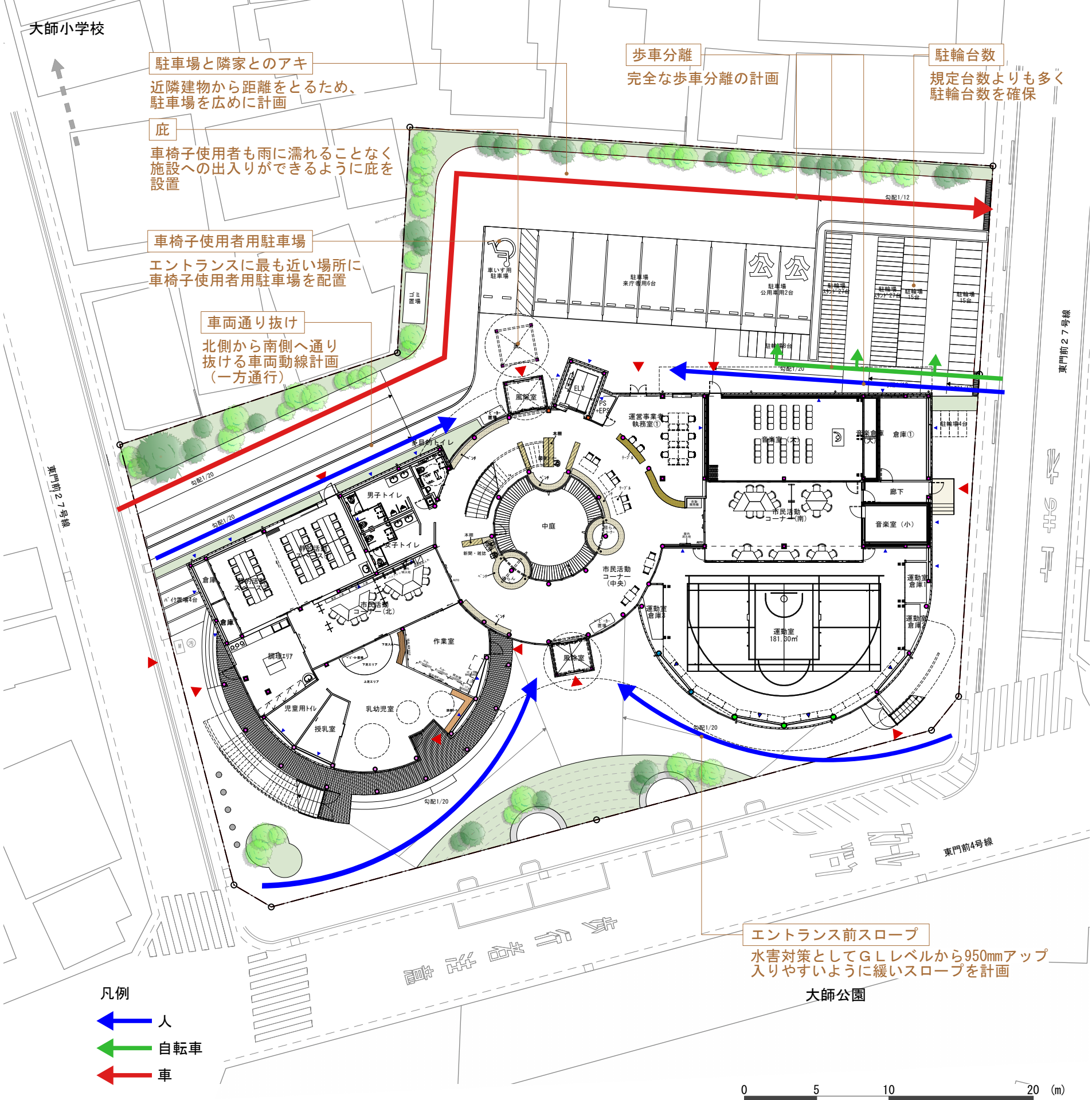


05. 外構・緑化計画



## 06. 断面計画

○1階は子ども文化センター・老人いこいの家の機能を継承する市民活動ゾーンを配置します。

北側を静かなエリア、南側を賑やかなエリアとして定義し、各室の使い方・活動におけるゾーニングを図ります。

主に地域住民の賑やかな活動・利用が内外に見えるフロアとなります。

○２階は主に大師支所の執務機能や地域会議等の利用機能を配置します。

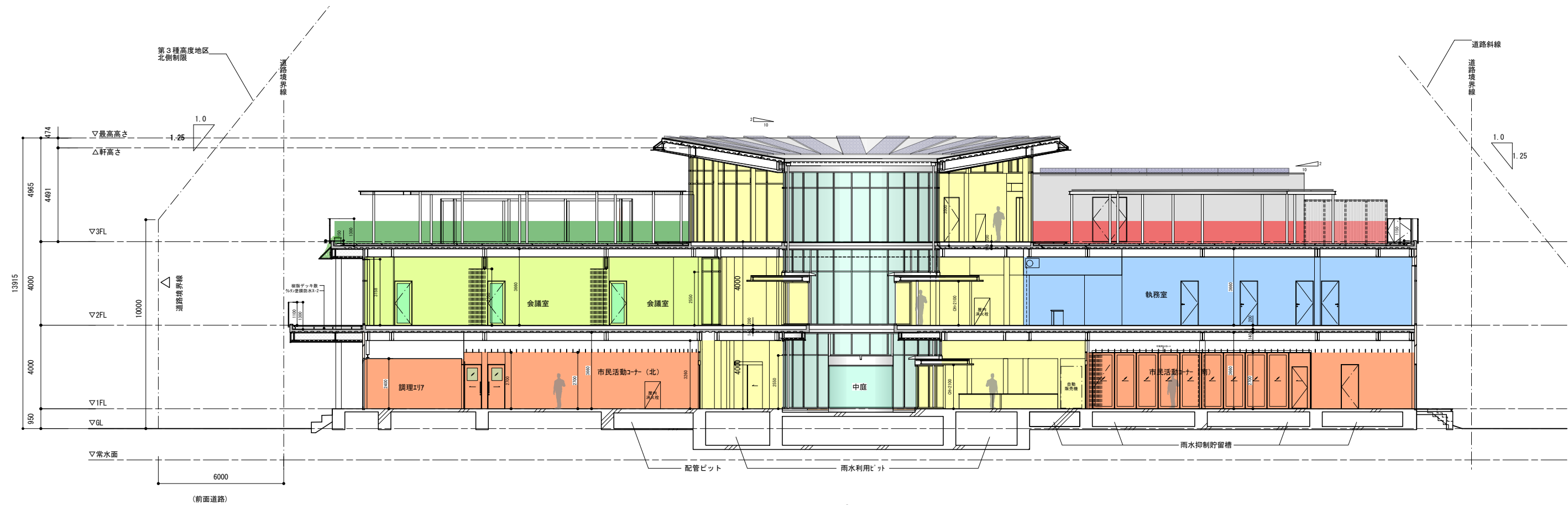
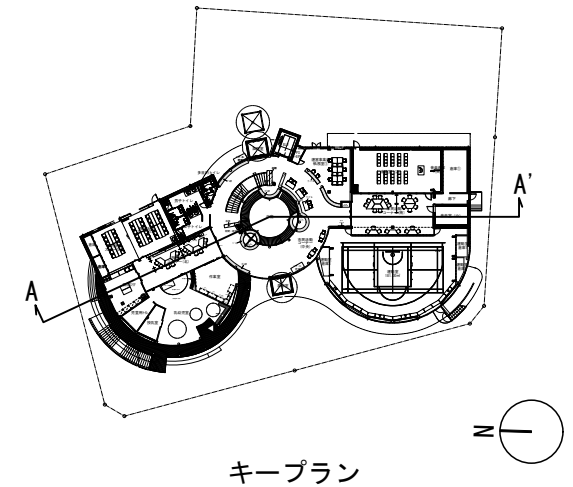
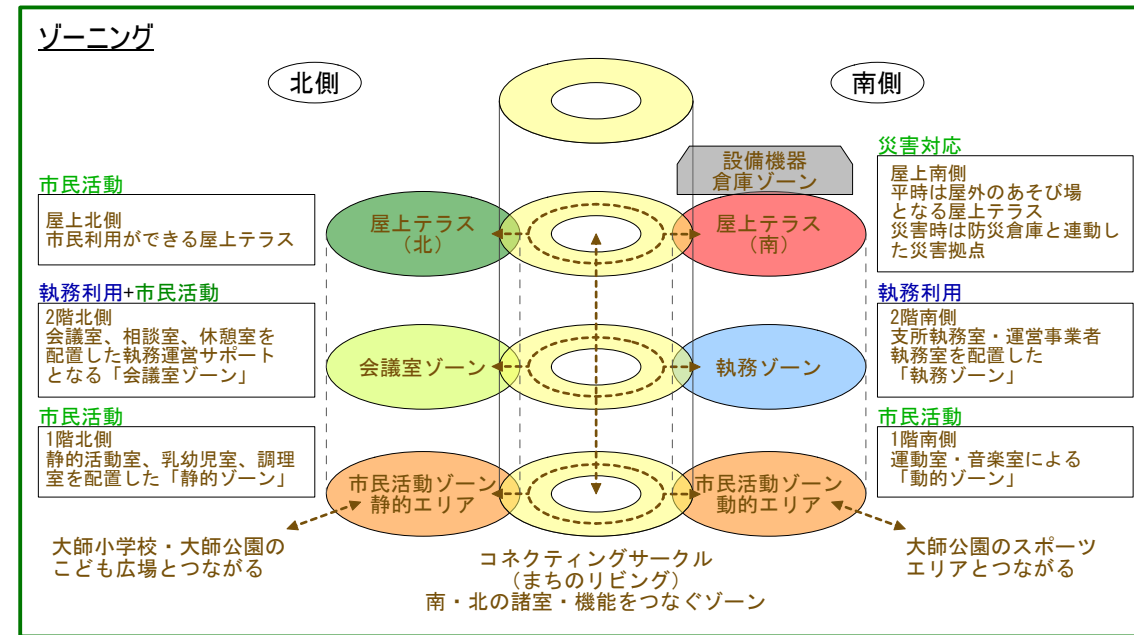
主に執務利用が中心となるため比較的静かなフロアとなります。

○3階は屋上庭園を大きく配置し、市民活動の促進を図ります。

また、中央のコネクティングサークル（まちのリビング）は

- ・ ゆっくりと公園を眺める
- ・ おちついて読書をする
- ・ 学習や勉強を行う

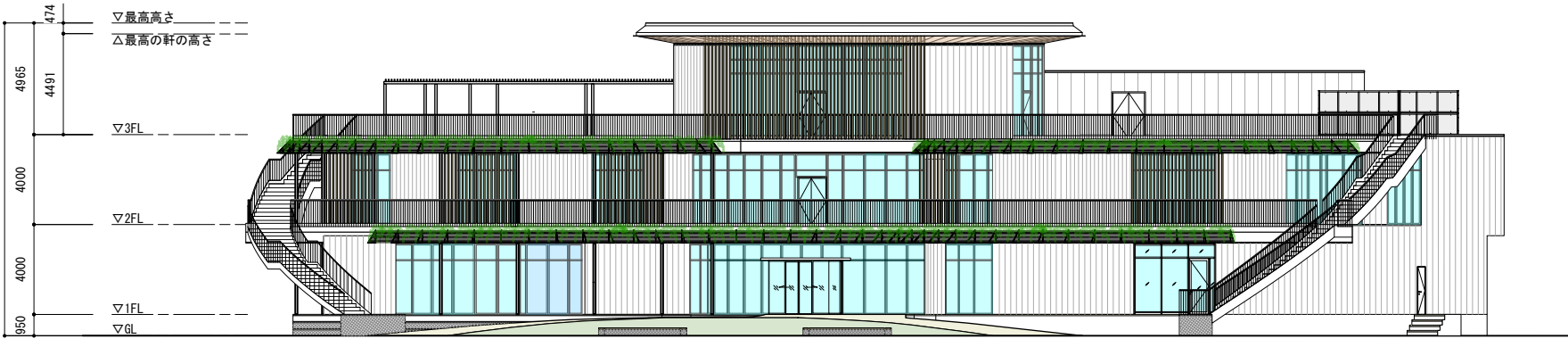
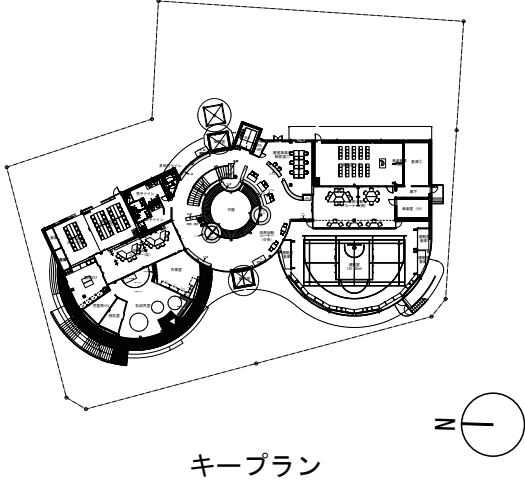
など落ち着いた利用を想定したフロアとなります。



A-A' 断面図

07. 立面計画

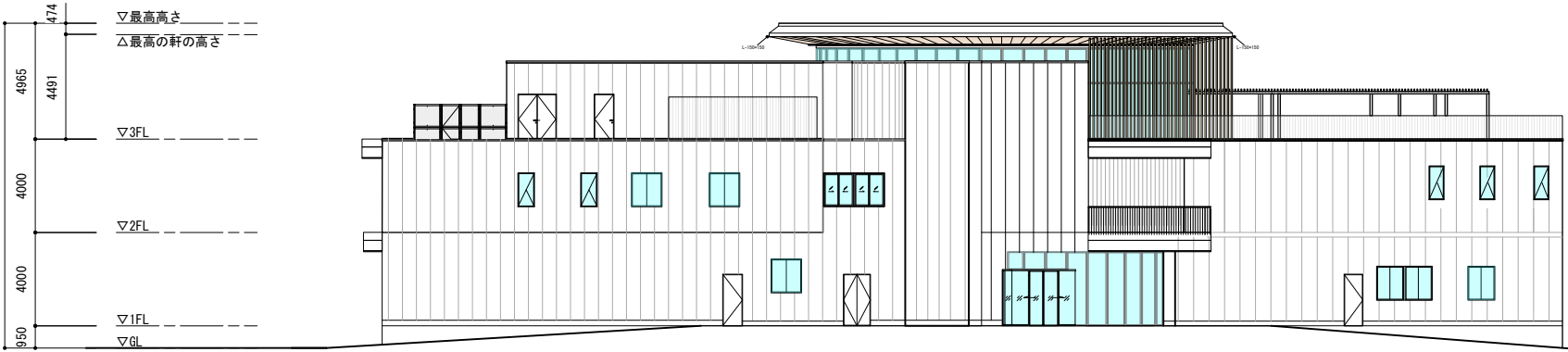
- 大師公園（西）側の角を持たない外観は、まちと建物を緩やかにつなぎ、人々を建物まで導きます。
- 中央の円形の屋根はまちのシンボルとなります。
- 張り出した外部テラスを利用し壁面緑化を行います。  
大師公園と建築を立体的につなぎ、公園の延長のような建物となります。
- まち・大師公園（西）側に対して、各諸室での活動が感じられるように大きく開口を設けますが、  
住宅（東・南・北）側に対しては壁面を多く配置することで騒音・振動・夜間照明等に配慮します。
- 西日を遮蔽する遮光ルーバーを設け、空調負荷の低減を図ります。陰影感のある豊かな外観となります。



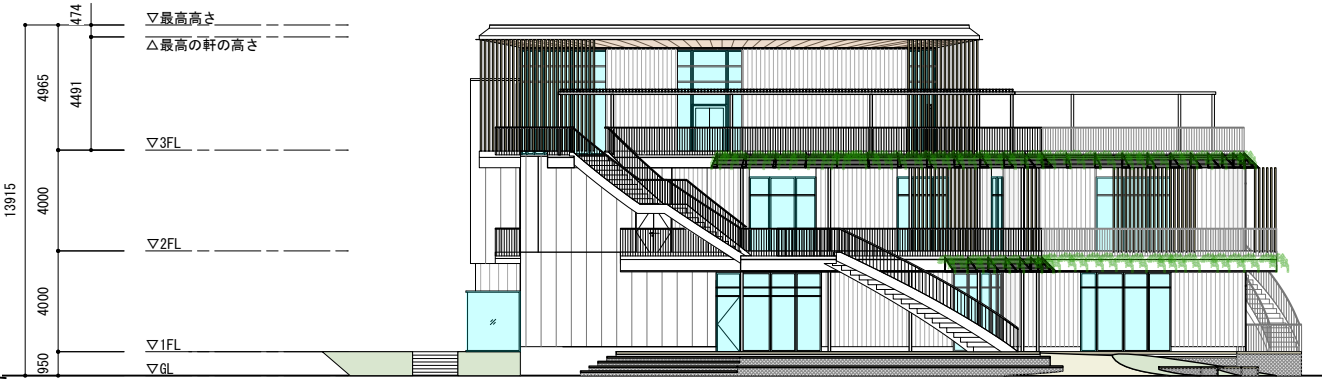
西側立面図



南側立面図



東側立面図



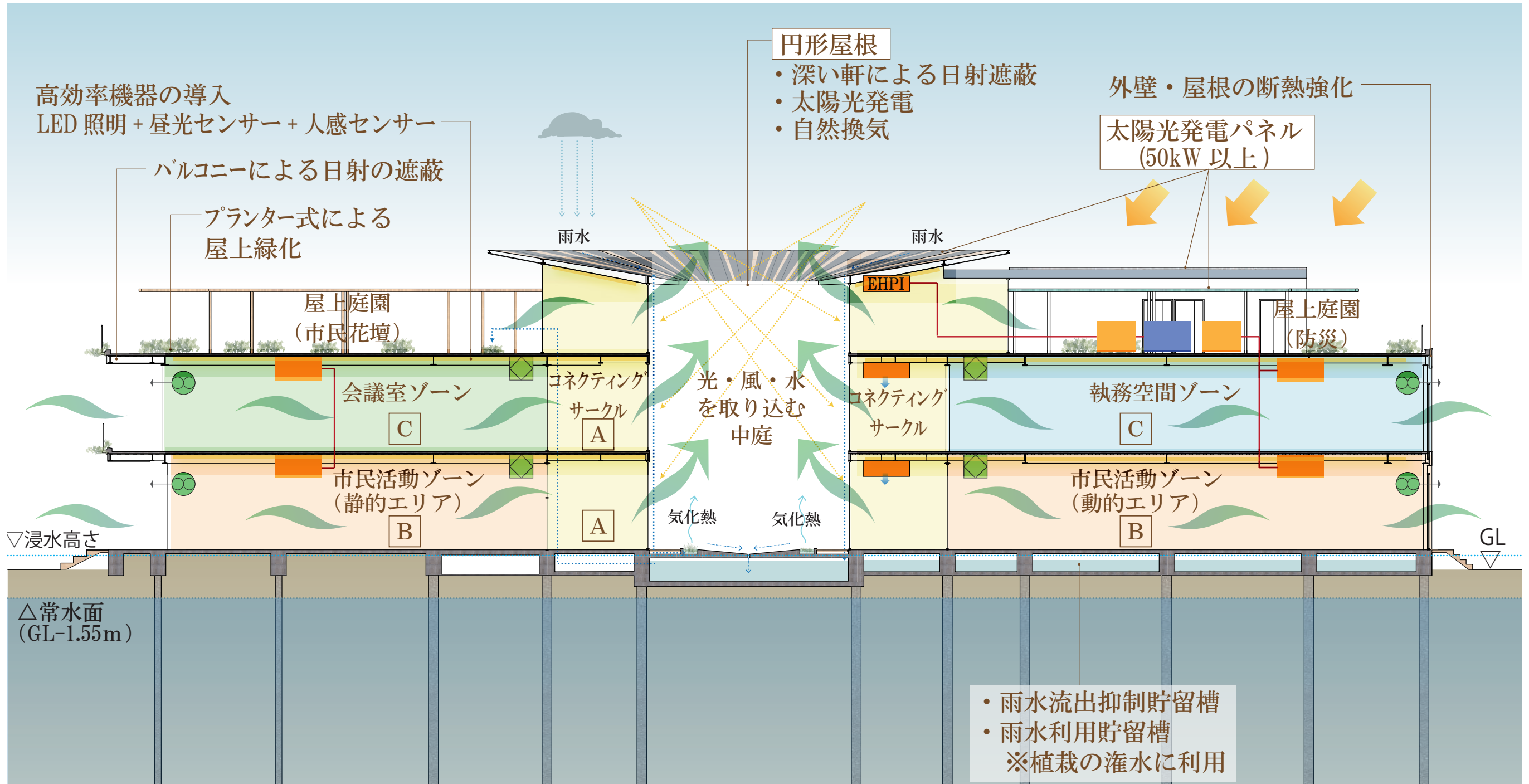
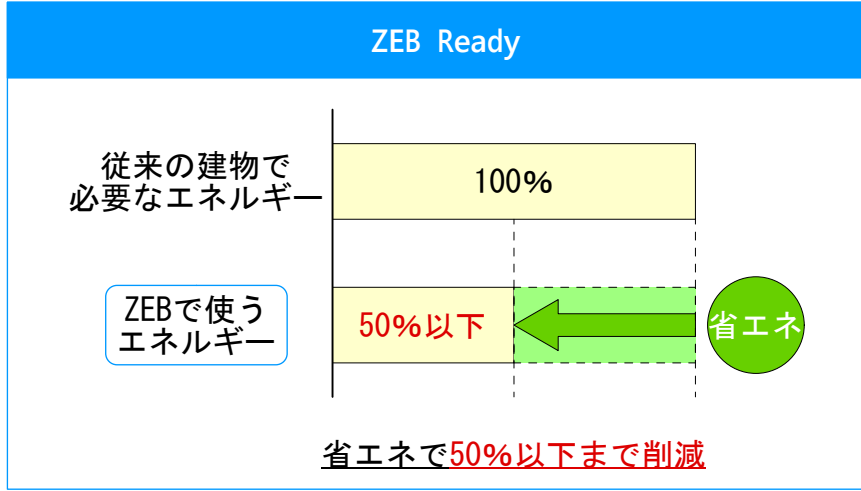
北側立面図



自然光や通風などの自然エネルギーを積極的に活用することで建物全体の環境負荷を抑える計画とします。  
高効率機器の導入や省エネルギー制御を組み合わせることで設備エネルギーの低減を図り、  
ZEB Ready（省エネにより従来の建物で必要なエネルギー消費を50%以上削減）を実現します。

○ZEB Readyの実現にむけて

一次エネルギー消費量を基準値より50%以上削減し、ZEB Ready認証を取得します。屋根・外壁の断熱強化、Low-E複層ガラス、  
遮蔽ルーバー・ブラインドによる遮光・バルコニーによる日射の遮蔽により空調エネルギーの低減を図ります。  
空調によるエネルギー消費が大部分を占めるため、高効率機器の導入と主要な空調機に回転数制御を導入します。  
LED照明器具と人感センサ、明るさセンサの導入、屋光利用によりエネルギー消費量を削減します。



09. 安全計画・防災計画

■管理しやすいゾーニング

運営事業者、市職員執務室はコネクティングサークルに向かって配置しているためフロア全体を見渡せるとともに、吹き抜けを介して上下階の様子も見渡せる配置計画とします。

■防犯性にも寄与する建物形状

角の少ない建物形状は死角を減らすことができます。人々が見守りやすく、犯罪の抑制につながる施設計画とします。

■地域で見守りのできる諸室配置

各諸室は市民活動コーナーによって一体的につながる計画とします。オープンで寄り付きやすい設えは常に誰かが居るような、地域住民同士で見守りしあえる施設を目指します。

■建物の安全性について

非構造部材の安全性:A類、建築設備の安全性:甲類 を確保するよう計画します。

□非構造部材：A類 について

- ・外壁、内壁（間仕切り壁）
  - ：ALC外壁などの重量がある壁で構造体と十分に緊結されていないものはアンカーボルトなどで固定を強化します。
  - また、大きな変形に追従できるよう、接合部設計に余裕を持った構造にします。
- ・吊天井
  - ：LGS下地について、斜め補強材（ブレース）設置による補強を行う。また吊ボルトとブレースの接合部を強化します。
- ・照明器具等の設備機器
  - ：落下する危険性のあるものは、落下防止用のワイヤーまたは専用の金具で固定します。
- ・重量設備機器
  - ：空調設備、エレベーター設備など、重量のある設備機器は、転倒や移動を防ぐために強固に固定します。
  - 配管や配線は、大きな動きによって断線・破損しないよう、フレキシブル継手等を用いるなどの措置を講じます。
- ・建具（窓ガラス、扉）
  - ：破損してもガラス片が飛散しないよう、飛散防止フィルムや合わせガラスなどを採用します。
  - 窓枠にガラスが追従できるよう、クリアランス（あき寸法）を確保します。
- ・家具什器
  - ：地震時に転倒・移動のおそれがある大型の棚や家具は、転倒防止（壁や床にアンカー等で固定）を行います。

□建築設備：甲類 について

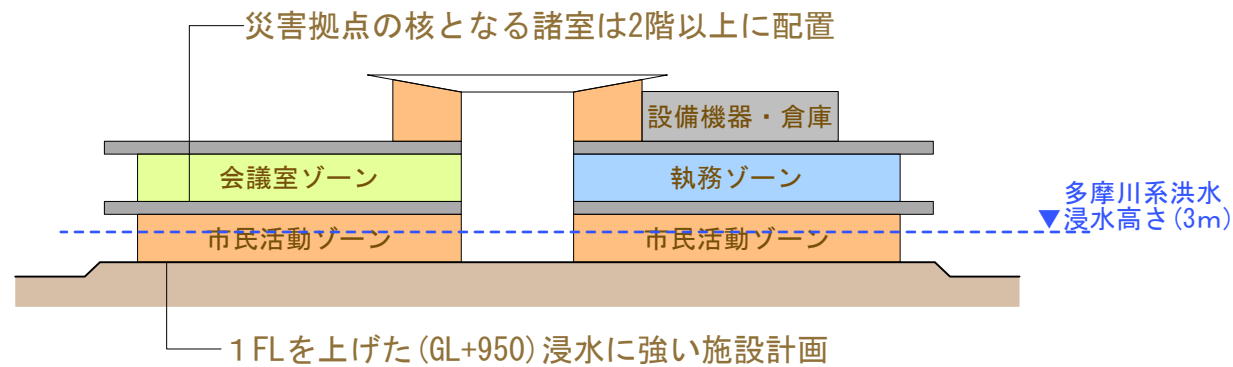
- ・設備機器、配管等について
  - ：大地震動時の水平方向及び鉛直方向の地震力に対し、移動、転倒、破損等が生じないように固定を行います。
  - また配管等については大地震動時の構造体の変形及び地盤との相対変位に追従し断線・破損しないようにフレキシブル継手等を採用するなど措置を講じます。

■明快な避難動線

2階・3階からの避難は、室内階段1か所・外部階段2か所：計3方向避難とし、1階は複数か所から避難できる分かりやすい避難動線計画としています。

■水害対策

重要機能である支所機能を2階、支所倉庫、防災倉庫、電気室機械室を3階に配置することで災害に強い施設計画とします。前庭は一次避難広場として、そして駐車場は緊急車両エリアとすることで、建築全体をこの町の一次避難拠点として一体的に利用することができます。



■災害時の機能維持対策

太陽光発電と非常用発電機を組み合わせ、災害発生から3日間(72時間)の電力供給を可能とします。（電力供給を行うのは執務室のほか防災拠点・避難拠点として使用する室のうち1/3程度の照明等のみと限定します。）

